

平成30年度 調布市立染地小学校 学校評価報告書

様式1

| 領域 | 自己評価結果の概要 | 学校関係者評価結果の概要 | 次年度への改善策 | 次年度 優先順位 |
|--|---|---|--|-------------|
| 学 力 向 上 | <p>・校内研究におけるユニバーサルデザインの視点からの授業改善は3年目を終え「視覚化」、「焦点化」、「共有化」を柱に共通実践が進んだ。特に、小グループでの研究を進めることにより、グループ内で一人一回の研究授業を実践することができ、互いに研鑽を深めることができた。</p> <p>・5年東京都学力調査では、「A教科の内容」では平均を上回っているものの、国語、算数、理科では「B読み解く力」が平均以下の項目がある。6年全国学力調査では、国語は「A主として知識」、「B主として活用」ともに、算数では「B主として活用」が平均を下回っており、本校の課題となっている。</p> | <p>・少ない人数であることのメリットが発揮されている。算数では特に基礎・基本が大切であり、少人数指導を中心に子どもの希望・実態に合わせてゆったりとした進捗度であると聞いている。計画に基づいて進んでいることが良い。</p> <p>・PTAと協力して英検や漢検などを実施してはどうか。縄跳びや水泳の級のように目的意識を持って学習に取り組むことで効果があがるのではないかと感じる。</p> | <p>・校内研究では、次年度はこれまでと異なる視点からテーマを設定し授業改善のさらなる推進を図る。</p> <p>・染地小グランドデザイン、染地小スタンダードを柱にどの学年、どのクラスでも展開される共通実践を深めていく。</p> <p>・個別対応が必要なケースでは、市算数少人数講師、スクールサポーター、学習ボランティア等を活用し本年度開設したリソースルームの充実を図る。</p> | A |
| 健 全 育 成 | <p>・小規模校の利点から、学年を越えて児童同士が触れ合う環境が日常化しており、このことから児童は良好な関係の中で学校生活を送ることができていると言える。これは、児童アンケート「学校生活は楽しいと感じている」で「そう思う」50%、「大体そう思う」50%と全員が肯定的回答であることに表れている。</p> <p>・このような傾向は健全育成委員会の活動にも起因し、保護者・地域においても「顔と名前のわかる地域性」として浸透しており、子どもたちにとってとてもよい生活環境を提供している。</p> | <p>・健全育成委員会はソフトボールを中心に子どもたちと関わっている。子どもの数が減っていることもあるが、子どものやりたいことと一致しているのかが心配である。</p> <p>・本年度、もちつきや開放プールなど安全優先とすることで中止や禁止といった状態となった。危険回避は当然であるが、「子どもたちの体験、活動の場を作る」という視点からもう少し積極的になれないものかと感じる。</p> <p>・あいさつなどがよくでき、子どもたちは健全に育っていると感じる。</p> | <p>・近年、特別な支援を要する児童が増えてきており生活面でも様々なトラブルに関わるケースもある。本校でもユニバーサルデザインの視点から授業改善や指導、対応の見直しを進めているが、次年度は校務分掌組織を一新し、支援教育推進部を設置、校内委員会も合理的配慮検討委員会に改編し指導の一層の充実を図る。</p> <p>・道徳授業の実践、個を配慮したきめ細やかな生活指導の充実により、いじめや生活指導上対応は少なかった。次年度も保護者、地域の協力を仰ぎ、落ち着いた学校づくりを進める。</p> | A |
| 健 康 ・ 体 つ く り | <p>・子どもたちは、運動会等の行事やなわとび週間、持久走週間などの体育的取り組みを通して成長し、児童アンケート「すすんで運動した」では「そう思う」50%、「大体そう思う」50%であった。</p> <p>・東京都の体力・運動能力調査の結果では、男子は3・4年生が平均以上が多いのに対し、全体的傾向として平均値以下の項目が目立っており、逆に女子では5年以外は平均以上が目立っている。全学年を通して課題となるのは、男子では握力とソフトボール投げ、女子では握力と立ち幅とびの項目である。</p> | <p>・体力調査では、子どもが運動に慣れていないことに起因しているのではないかと感じる。毎年実施している走り方教室もよいことだが、ボールの投げ方なども体験的に実施すると体力調査の結果もよくなるのではないかと感じる。</p> <p>・学校の課題としてダンスクラブの指導ができる先生がいないとのこと。地域でもダンス指導ができる人材もいるが、クラブを土曜授業日に実施できればボランティアの協力もしやすい。</p> | <p>・オリンピック・パラリンピック推進教育の一環として、次年度も澤村先生による走り方教室を継続する。</p> <p>・染地小児童のウィークポイントである握力、ソフトボール投げ、立ち幅跳びに関しては、体育部会を中心に体力向上の指導法を研究する。</p> <p>・運動系クラブであるダンスクラブについては子どものニーズが高いが指導できる教員がいない。地域との連携により活動体制を作る。</p> | C |
| 保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携 | <p>・PTA、健全育成委員会、開放委員会、おやじの会とどれも積極的に地域行事等を開催、運営して下さり、子どもたちにとって良い体験の場となっている。</p> <p>・避難所運営に関しては、四月の調布市防災教育の日に「避難所運営ゲーム(HUG)」を行い、地域との連携を持つ機会となった。今後、防災教育の日を中心に避難所設営、炊き出し訓練等より実践的な体験を子どもたちにも積ませたい。</p> | <p>・地域運動会は地域と子どものために頑張っており、これまで続けてきている。スポーツ推進委員も積極的に活用して欲しい。</p> <p>・PTAでは少人数であることの良さが出ている。役員がすぐに回ってくるため保護者と学校の関わりが深い。幼稚園・保育園の時からつながりができている。単学級のためクラス替えができないが、その必要も感じない。</p> | <p>・PTAや各種地域団体においては、小規模校・地域であることから過度な負担とならない運営が必要である。誰でも引き受けることができる組織、大人も楽しみ意義を実感できる運営をキーワードに連携を深める。</p> <p>・2021年度に地域学校支援協働本部が設置される予定となっている。これに向け地域団体と連絡・調整を進め必要に応じて人材の発掘等の準備を適宜進める。</p> | C |
| 特 色 あ る 教 育 活 動 | <p>・オリンピック、パラリンピック推進教育では、調布市スポーツ推進委員と連携し全校児童にポッチャの体験授業を実施することができた。</p> <p>・本校では「ふれあい」をキーワードに、たけのこ学級との交流やふれあい給食を通しての高齢者との交流を進める機会を設けているが、それぞれ児童アンケート結果がとても良好であった。（「よく交流しているか」に対し、対たけのこ学級では87%が「そう思う」、ふれあい給食では62%が「そう思う」であった。）</p> | <p>・ふれあい給食では子どもたちのアンケートではよく関わっているという意識のようだが、以前にくらべ家庭での話題にあがるのが少なくなっていると思う。高齢者の参加が減っているのではないかと感じる。負担無く関わる方法はないか。</p> <p>・たけのこ学級との関わりも、行事等のイベントでの関わりにとどまらず、通常学級との日常的な関わりが工夫できるとよい。</p> | <p>・上記健全育成の項にも触れたとおり、特別な支援を要する児童の割合が増えている。インクルーシブ教育の視点から通常学級とたけのこ学級との交流や学校外の様々な方とのふれいあを検討していく。</p> <p>・働き方改革との関連で、従来の学校行事、業務のあり方では特に小規模校である本校においては維持、運営が難しい。本校の特色をより一層明確にし、必要に応じて行事や業務を再編成するなど検討していく。</p> | B |